



職場に民主主義の確立を！

参議院選挙では改憲勢力に大きな力を与えてしまいました。野党敗北の原因をマスコミや財界及び団体に目を向けがちです。「相手が強かったから」という総括がこれまでの敗北の原因として上げられてきました。「力量不足」であったという総括がされてきませんでした。

翻って見れば、今日の政治情勢は、総評から連合への移行、社会党の解党があつた時点で、招いた当然の結果だったのです。

もつと遡れば、職場の民主主義をないがしろにした方向転換もありました。「職場でものが言えなくなつて久しい」とは、同僚の言葉です。

改めて私たちは「三池・国鉄・全電通千葉闘争」の闘いに学びなおす機会だと思つたのですが、このように考え

るのは私だけでしょうか。少なくとも、労働大学に結集する多くの仲間の考え方であり、少数派でも頑張り続けている人々の共通の思いです。今、職場は砂漠よりもひどく「管理監獄」と呼んでもよい状況でしょう。労働者同士が競争に駆り立てられ、隣の仲間が「敵」と思い込まされるような「成果主義」の環境で働いています。

労働者の団結と簡単に言いますが、そう簡単ではありません。そのためには、まず職場に民主主義が確立されなければ本物の団結は築かれないということです。このような意味でも、職場の「民主主義確立」は労働者運動の出発点でなければならぬと考えます。しんどいといえる運動ですが、かつて、今現在も、労働者の運動が厳しくなかったことはないと思います。

『月刊まなぶ』企画編集委員 佐久間和俊